

## 「先輩の話を聞いてみよう」講演会

ご活躍の先輩方がどのような仕事をしているのか、企業が望む学生像はどのようなものか等々、  
本音の話を聞いてみよう。就学中、就活中・予定の多数の学生諸君の参加を希望します。

化学工学プログラム、化学生命工学プログラム、南窓舎密会

### 記

日 時：令和5年10月14日 13時30分～15時20分

会 場：42号教室およびZOOM

共 催：化学工学プログラム、化学生命工学プログラム、南窓舎密会

#### 1. 「農業分野への化学工学の活用」 13:35 - 14:25

平田 晃誠 氏（平成23年修了、株式会社サナス 開発研究部）

私が所属する『株式会社サナス』では、とうもろこしやさつまいもを原料として、でん粉とそれ以外の成分（蛋白、繊維分、胚芽など）に分離、精製して、脱水、乾燥により食品原料や飼料製品を製造するコーンスターチ工場、そこからさらにでん粉を液化、糖化したあと、ろ過、脱色、脱塩などの精製を行い、濃縮や乾燥をして糖化製品を製造する工場があります。私は入社から13年目であり、入社から7年目まで在籍した設備導入部門の生産技術課では設備の能力を設計計算する必要から化学工学の教科書を勉強しなおしながら設備導入を行っていました。現在はアグリソリューション開発課という課に所属し、農業を対象とした業務を行っておりますが、鹿児島県を中心に問題となっているサツマイモ基腐病の対策に効果がある蒸熱処理を化学工学の知識を使い実用化まで行いました。本講演では化学工学の知識をどのように農業分野へ応用したかについて講演させていただきます。

#### 2. 「分析という仕事」 14:30 - 15:20

山口 やよい 氏（昭和58年 応用化学科卒業、公益社団法人 鹿児島県薬剤師会  
試験センター）

皆さんは、卒業論文を作成する中で、試験を実施し、そのデータを分析し、評価していると思いますが、その試験自体について、正しいものであるか検証しているでしょうか。

一般的に、製造業者の商品は開発した製品です。製造後に規格に適合するか確認し商品とします。日々より有用性の高い製品を作ることに研鑽していると思います。私共登録検査機関は、顧客から水や食品等の試験を依頼され、その試験データが商品となるため、その試験の正確性において研鑽します。

分析という仕事は、試験を実施するだけでなく、常に試験結果の確からしさを確認しつつ、試験対象品の変化を知り、評価をしていくことです。この口演では、検査機関の立場から、試験検査の精度の確認方法及びそのシステム、また、試験データから得られた結果をどのように活用していくかについて、さらに、試験検査は目的により、試験の種類や役割を持っていることをお話ししてみたいと思います。